認定NPO法人
みんなでお城をつくる会

小田原城天守から未来を創る

［天守木造復元のおもい］

認定NPO法人

みんなでお城をつくる会

天守木造復元は、永続的循環型社会への象徴

気候変動を始め、地球の環境は悪化の一途をたどっています。

世界中で様々な取り組みがされていますが、この小田原を中心とした西湘地域にも古くから伝えられた叡智がたくさんあります。

歴史的にも東西の交通の要として、また海山川の恵まれた環境にあるこの地域は、その文化の中で、長い間自然に寄り添う循環型の社会を継続してきました。

19世紀から、石炭石油の埋蔵エネルギーの利用と科学の発展とともに徐々に、循環型は崩れ始め、現在は急速な大量消費、大量廃棄の時代になっています。

小田原城天守木造復元は、まだ人々が辛うじて循環型を守っていた時代の象徴として、①文化歴史の再発見、②木材利用による循環型自然環境保全（自然環境保全）③日本の風土に合った建築方式の技術継承（伝統技術の継承）、④豊かな環境で育まれる豊かな暮らしを実感できる経済（暮らし経済）という4つの柱を掲げたいと思います。

つまり、小田原城天守木造復元を通して私たちは、私たちの、私たちによる、私たちのための未来を創造してゆくのです。

小田原城天守木造の復元のおもい

1

文化・歴史を再認識して、未来へ活かす

【文化歴史の再認識】

2

木材利用による山の自然環境保全

【自然環境保護】

3

大規模木造建造物を造る大工技術を継承する

【伝統技術の継承】

4

小田原城を象徴とする経済・観光活動の発展

【暮らし経済】

1 文化と歴史から学び、未来に活かす 木を観て森を想う文化と郷土愛

戦災の復興の時代、各地にコンクリートの城が現れました。戦禍の街に堅固な天守閣が築かれていく姿に、その街に暮らす人々がどれほどの励みと希望を与えられたことか想像ができます。新しい時代のシンボルとして「復興天守」は見事にその役割を果たしました。

しかし戦後70余年を経た今、コンクリートに覆われた街は、自然を統制する「文化」の象徴とも成りました。この文化に明るい未来を感じることはできません。むしろ進むべき方向を変えたいと感じ始めています。

この程ユネスコ無形文化遺産に「伝統建築工匠の技」が登録されました。日本文化に通底する信仰にも似た自然観は、まだ匠の技に息づいている事が見出されたからでしょう。日本の匠たちは自然と共に生きる暮らしの中で、木材の性質を見抜く目を養ってきました。木々の性質を見抜き、竣工後の陽の当たり具合まで見越した適材を、適所に使いこなす技。この技術があればこそ世界に類を見ない木造建築物を遺し維持することができたのだと思います。

「木を見て森を想う」この思いの適う街に暮らし、子どもを育てたい。その新しい時代のシンボルとして木で造られた小田原城が欲しい。秒針が刻む時間ではなく、木が歳月を刻む時間軸を街に取り戻したいからです。私たちが寄せる郷土への愛着も、こうした時間の中でこそ静かに育まれる文化だと信じています。

天守前の広場完成式典
文化放送の公開録音
(昭和35年6月5日)
写真提供小田原市

2 木材利用による 山の自然環境保全活用

日本は150年前まで、生活資材やエネルギーのほぼすべてを、里地里山から生み出していました。現代はそれらの多くがグローバル工業製品や化石燃料に置き換えられていますが、人が生きる基盤は大地でありこの国を包む大気であることは不変です。その大地に根を張り大気循環を担う樹木を持続的に保全するためには、適切な管理と施業の継続が欠かせません。

小田原西部に広がる森林には、「天守の森」と呼ばれる小田原藩有林を今に引き継ぐ由緒ある森が残されています。300年前から藩により植樹が開始され人々の生活を支えてきました。現在も一部に樹齢300年の巨木林が残され、偉容を誇っています。こうして大切に育てられた樹々ですが、持続する美しい森を保つには、計画的に伐採・植樹・間伐を繰り返す必要があります。大径木も力のあるうちに伐り、その価値に相応しい用途に活用する事が、文化を創り、そしてまた新たな植林を行うことで未来へ豊かな自然環境を繋げるのです。

江戸時代からの歴史を内蔵する地元の大径木を中心に、大量の地元材を活用する小田原城天守木造復元は、持続可能な森林育成の実現と、環境保全に大いなる貢献をする極めて有益なプロジェクトなのです。

「天守の森」での様々な保全作業

3 大規模木造建築物を造る大工技術を継承する

日本建築史上、大規模な木造建築というと東大寺大仏殿や長野の善光寺、姫路城天守などが浮かびますが、ひとことで木造といってもすべてが同じ技法ではなく、特に天守や櫓は、大規模でかつ「複数の階を重ねる」という点に他の建築とは異なる特徴的な技術が展開しています。

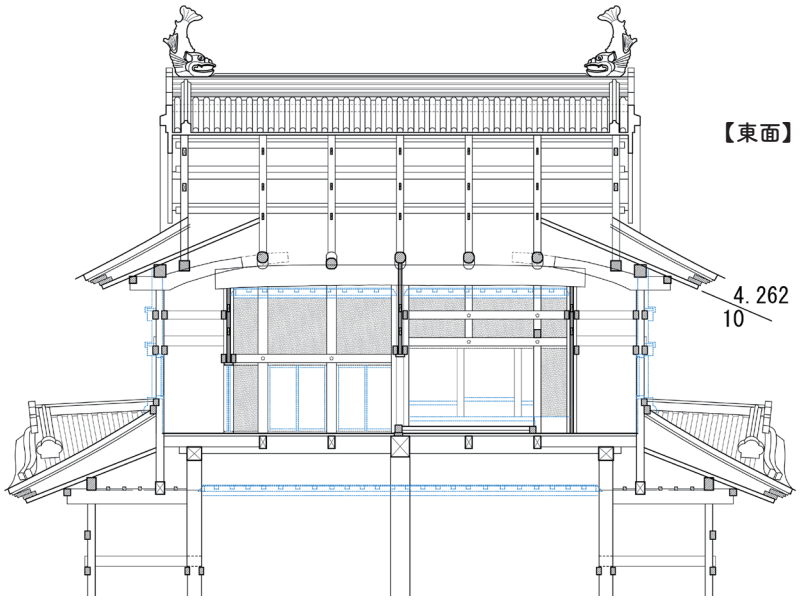
大径材を多く利用して組み立てる大工技術は絶滅寸前です。公共建築としての「木造天守」に、技術継承の新たな可能性をみています。

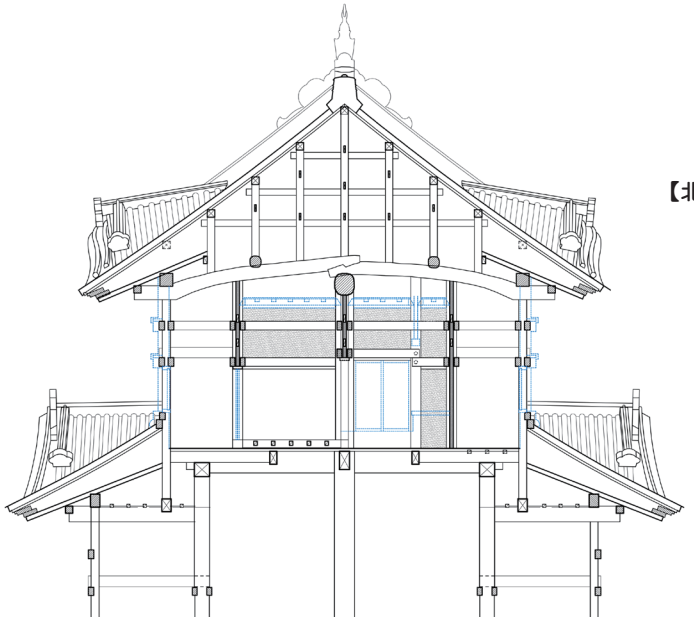
小田原城天守は、3基の模型と戦前に複写された図面が現存しており、我々はそれらを構造的な視点から再検証しています。これまでに各史料から、長さの異なる3種類の通柱(とおしばしら)を駆使し、それらを縦横に繋ぐ梁により各階の床組を造って上部荷重の分散を図りつつ、天守全体を強固にしていたのではないかと推測しています。

まだ確証は得られていませんが、18世紀初頭に再建された小田原城天守がこのような構造で実在していたとすれば、天守の技術的な変遷を考える上でもたいへん稀有な事例となります。現代においてでさえ、小田原城天守の木造復元には非常に高度な大工技術が求められるのですが、再建当時には既にその技術をもっていたことになります。

日本のように、湿度が高く、地震や台風などの天然災害が多い風土では特に、木造の建築物が、持続型社会に対して有効です。脈々と受け継がれてきた伝統木構造の技術は世界でも注目され、2020年には「伝統建築工匠の技　木造建造物を受け継ぐための伝統技術」としてユネスコに無形文化遺産に登録されています。

◉小田原城三重天守引図＋大久保神社模型による最上階の復元図◉





「小笠原徳明氏の原図データーを基に作成した復元図」

4 小田原城がもたらす経済・観光活動

小田原市観光戦略ビジョン（平成28年3月発行）には2029年に観光客数1,000万人、一人あたり観光消費額4,400円　が目標と掲げられています。小田原市の観光客数は500万人前後で推移してきましたが、625万まで上がってきました。日本の大動脈、東海道に位置する小田原は城下町・宿場町として全国的な知名度があり観光産業への期待は少なくありません。東京からのアクセスは格段に優れ、海山川と自然環境も、最高の土地です。

その中でも小田原城は市の観光戦略の大黒柱です。まずは小田原城に来ていただき、次に市内の他の観光施設への流れを作ることで良い経済循環が生まれます。

小田原城天守木造復元は小田原を日本トップクラスの城下町に押し上げ世界中の人々を魅了します。建設準備段階から建設中、完成後まで市内のみならず県内に多くの経済波及効果があり、観光都市小田原のエンジンとして長く貢献できる事業です。

小田原城をシンボルとして、小田原を日本古来の自然と共に生きる知恵を継承し、持続的な環境を維持した住みやすいまちとして発信することにより、日本や世界に認知をしてもらい、経済の発展を目指します。

【新たな展開】

令和2年の文化庁の新たな定義により、江戸時代の木造天守の許可への道が開きました！

小田原城跡は国指定の史跡であり、その現状変更については、文化庁の判断を必要とします。

令和2年4月17日、文化審議会文化財分科会が決定した「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」では、「復元的整備」の項の追加によって「往時の歴史的建造物の規模、材料、内部・外部の意匠・構造等の一部について、学術的な調査を尽くしても史資料が十分に揃わない場合に、それらを多角的に検証して再現することで、史跡等全体の保存及び活用を推進する行為」と定義されました。これまでは幕末まで残っていた天守の全体写真が残っていないことから、史跡的に木造天守を復元するための許可を得ることが難しかったのですが、今後この定義を生かし、小田原市と連携して当会が行っている小田原城天守調査研究をまとめ、文化庁に現状変更の申請が出来るように進めて行きます。

認定NPO みんなでお城をつくる会のこれまでの活動

NPO以前

2009年～2012年	2009年小田原市内の有志により、小田原城天守木造復元を目的とする小田原城普請会議を立ち上げる。国指定史跡内の木造天守を復元するために勉強会を開き様々な課題を検討

NPO以後

2012年	NPO法人として活動開始
2013年	江戸城、駿府城、名古屋城、掛川城、小田原城で組織する「東海道お城会議」と連携
2014年	「東海道お城会議」を小田原で開催 西和夫先生による「小田原城天守模型を探る」講演会を開催 第３０回「全国削ろう会」小田原大会の誘致マネージメント
2015年	小田原城天守耐震改修に際し、最上階の摩利支天を安置する木造空間に柱や建材を寄贈（市より感謝状） FS(Feasibility Study:実行可能性調査研究)会議を立ち上げ。市の関連部署の担当者らと小田原城木造天守復元の実現可能性について調査研究
2016年	顧問会議開催 FS会議(天守木造化可能性検証検討委員会)に注力。定期的に（５回）開催。 認定NPO法人として認められる。
2017年	地球交響曲第八番の上映会を開催。参加者約400名。上映後、龍村監督、中澤宗幸氏、畠山重篤氏、榎木孝明氏らとパネルディスカッション 創立記念事業として熊本城調査研究センター所長渡辺勝彦先生による地震の被害と再建プロセスについての講義 FS会議を終了し、小田原城天守調査研究機関設置に取り組む
2018年	小田原城天守調査研究プロジェクトを立ち上げ 専従の研究者を招聘 調査研究に関連した顧問・アドバイザーの招聘 創立記念事業として海老崎粂次氏（錦帯橋「平成の架け替え」の棟梁）による講演会と、歴史的建造物に経験・造詣の深い識者を交えたパネルディスカッションを行なった。
2019年	小田原城天守調査研究プロジェクト 既往研究にみられる天守の構造技法について事例を収集、調査 創立記念事業として当会の小田原城天守調査研究室の小田原城天守模型調査の中間報告及び大工棟梁（白根伸浩）、林業家当主（辻村百樹）から見た木造天守についての講演
2020年	小田原城天守調査研究プロジェクト 「小田原城三重天守引図」の実測調査。図面化。 「東大模型」「大久保神社模型」の実測調査。引図などの資料と比較検討。

◉認定NPOへのご寄付について

-当会は一般のNPO法人ではなく、認定NPO法人です。寄付金は税額控除/所得控除の対象になります。一例として、1万円のご寄付に税額控除を適用しますと所得税が3,200円減少いたします。
賛助会員になって小田原城天守木造を実現するために活動のご支援お願いします。
賛助会員なるにはQRコードから入るか
http://www.odawara-oshiro.org/web/about/toJoinIndividualMember.html
から直接お申込みください。
ご不明な点は下記へメールでお問い合わせください
info@odawara-oshiro.org

認定NPO法人 みんなでお城をつくる会
〒250-0042　神奈川県小田原市荻窪4385
電話:0465-46-8944 FAX:050-3488-2039